

私は令和3年11月、東京会場にて六段に昇段することができました。

これもひとえにご指導いただきました新宿剣連の先生方をはじめ、諸先生方のおかげであると深く感謝を申し上げます。

私は30歳すぎから剣道を始めて六段昇段までに30数年かかりました。その間にだんだん剣道が人生の大きな柱となり、辛い時や困難にぶつかった時に精神的に支えてくれる大切なものとなっていきました。また、剣道を通じ友人もたくさん増えました。

一方で昇段に臨み、いくつもの課題を突き付けられたのも事実です。何度も昇段をあきらめようとしていました。そのたびに先輩方の後ろ姿を見、励まされて自分も頑張ろうと思いました。

あまり参考にはならないかもしれませんが、六段昇段にあたり私が特に努力してきた事を紹介させていただきます。

一つは、気剣体一致の打ちができるようになる事。そのためには、手と足がバラバラにならないことが大切です。何度も何度も面打ちの稽古をしました。ご指導いただいた市川先生、佐藤幸子先生ありがとうございました。

二つ目は、構えた時の姿勢を正しくする事。背筋を伸ばし、重心を左腰に乗せる。佐藤先生にご指導いただきました。

三つ目は、得意技をつくる事。清水先生に小手技の稽古を何度もつけていただきました。自分でもいろんな場面で小手技を出し反復して稽古をしました。

四つ目は、攻めて相手を動かして打つ事です。剣道は相手とのやり取りの中でチャンスが生まれるといわれています。相手に関係なく自分勝手な剣道にならないよう心がけました。

以上のようなことですが、まだまだ不十分で達成には程遠く、更なる修練が必要です。

剣道は本当に奥が深く、だからこそ魅力があります。今後も精進を続け、少しでも練度を上げられればと思っています。また、剣道を楽しみながら末永く続けていきたいと思います。今後とも、よろしくご指導をお願いします。

最後に、事務局の清水先生、林先生には剣連の稽古を再開するにあたり、大変お世話になりました。重ねてお礼を申し上げます。

令和3年12月

山崎悦子